

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

キッズキャンプ

船穂中学校区青少年を育てる会の主催行事として、9月3日・4日にキッズキャンプが、国立吉備青少年自然の家で開催された。わたしは、野外炊事で使う薪をたのまれていたので、トラックに薪を積んで遅れて参加した。去年はひとりで積んだものだからともしんどい思いをした。今年は金平先生と一緒に積んでくれたのでずいぶん助かった。

今年で十回目ということもあり、指導者の方も手慣れていて野外炊事も手際よく進んだ。薪も勢いよく燃え用意した身としてはほっとした。学校のシャッター倉庫にあった杉と松の柱をチェーンソーで切り斧で割ったものと、家の裏で伸び放題になっていたキンモクセイの薪を持ってきたのだけれど、用意した三分の一も使わなかった。キンモクセイは油分が強くて最初に組んだもので十分調理ができ、後から薪を追加しなくてよかったようだ。

カレーのルーもご飯も上手に炊け、子どもたちと楽しくカレーを食べた。明日もあるからカレーを食べたら失礼しようかなと思っていたら、「校長先生は、門野先生と6番の場所で誘導してください。」と言われた。夜間に門野先生一人にするのは気の毒なので、言われるがままに暗闇探検に参加することになった。誘導員といってもただ誘導するだけでなくおっかなびっくり歩いている子どもたちを脅かす役だ。物音を立てたり、背後から「ワー。」と大声で走り寄ったりした。「ああ、びっくりした。」「キヤー！！」と騒いでいるうちに時間は過ぎ、9時過ぎに暗闇探検は終了した。

二日目の朝は、トラックの荷台の薪を薪小屋に積み戻すことから始めた。積み込む時と違って一人なので結構しんどかった。台風の影響か湿度が高くてびしょり汗をかいた。1時間ほどで作業は終了し、汗まみれになったシャツを着替えた。時計を見ると8時20分になっていた。しおりを見ると8時30分から「フォトオリエンテーリング」をすることになっている。去年はゴールで子どもたちを待つ役だったので今年もそうだろうと思って自然の家に向かった。

到着すると子どもたちはまだ宿泊した「いぬ村」にいた。着くとすぐに「校長先生はGグループと一緒に歩いてください。」と告げられた。指示が的確で有無を言わせない感じ。「はい。」と小声で返事をして歩くことになった。子どもたちは二日目になっても元気いっぱい、下りはもちろん上りも駆ける。遅れがちになりながらついて行くから余計にしんどい。千賀教頭先生は沢で転倒して手のひらとひざにけがをしたというから、けがをしなかったことを喜ぶべきかもしれない。

キッズキャンプは教頭として勤務した最後の年に青少年を育てる会の人たちと立ち上げた。立ち上げ当時のメンバーや親師会の役員の方や保護者の方が多く参加されている。そうした人たちとともに再び関わられることをうれしく思った。タイムスケジュールや子どもたちへの指導も適切でとても楽しいキッズキャンプだった。